お皿の割れる音

　今回は、ペンネーム「お皿の割れる音とか好きですか？」さんからのお便りです。
　ちなみに、その音は私は全く得意ではありません(笑)。
　聴くと、ヒヤッとして身のすくむ思いがします。
　でも考えてみるとなぜなんでしょうね。
　サスペンスやホラーなどで効果音として使われることが多いこともどこか影響しているような気がします。
　それでは、今回のお便りを紹介します。

　渡辺先生虫が苦手だったんですね。知りませんでした。うちの子は虫好き（生まれつき？）なのでマリー先生にすごくお世話になっております！私たち夫婦も実はそんなに虫に興味があるわけではないのですが子どもの影響でそっちの世界へ入って行って知らないことばかりで意外に面白いです！長野県諏訪湖の船の乗り場付近で売っている、イナゴの佃煮がそのままアイスクリームに突き刺さっているアイスも子どもと一緒に好奇心で食べましたが殻付きの小エビを佃煮にしたような味で食べられました。しかし夫婦ともゴッキーだけは苦手で、遭遇しないように季節を問わず生ごみは小分けしてごみの日まで冷凍庫で保管しています。（うちの子はそれも飼育したいようですが、それだけは勘弁して。と私たちは言っております。）
　話は変わりますが、渡辺先生は高校からバイオリンを始めてあんなに上手になるとは驚きで、バイオリンは音感が必要そうだから、きっとその前に他の楽器の素地があったのではと思っていましたがそうでもないということですか？

以前 NHK の『ファミリーヒストリー』の坂本龍一さんの回で、坂本さんの叔父さんが、小さいころ、お皿の割れる音が大好きで庭でお皿を割って遊んでいて、しかも高級なお皿の方がいい音がするからこっそり高級なお皿を持ち出して割って音を楽しんでいてすごい怒られたというエピソードがありましたが、渡辺先生や親族の方の音に敏感なエピソードってありますか？？絶対音感に関するエピソードや音に色が見える共感覚のようなものがあったりしますか？

ゴッキーの飼育を望んでいるお話、笑いながら読ませてもらいました。

それすらも大切に飼いたがるのは、本当に好きな証拠なんでしょうね。

（私はあと２回くらい生まれ変わっても無理な気がします）

音感に関しても、意外な所からのご質問をありがとうございます。

私は高校に入るまでしていた習い事と言えば、剣道とサッカーくらいでしょうか。

それから、なぜか走ることだけは得意だったので中学校は陸上部に所属していました。

ですから、体育会系的な経験ばかりで、音楽的素養はほぼ皆無です。

その状態でバイオリンを始めたので、中学校時代までの友人はそれはそれは驚いていました。

ついこの前も、中学校時代の恩師の退職祝いで弾いてきましたが、その先生もまさか私が演奏を始めるとは思っていなかったようです。

ちなみに、何らかの「音」を耳にしていたかどうかでいうと、実家が教会であったために、教会音楽のようなものは確かに耳にはしていました。

ですが、それは学校で習う音楽の勉強のそれとは明らかに違うものだったために、認識としては全く違うものとして捉えていた感覚があります。

でも、今思ってみれば、確かにそれも広い意味での音楽ですね。

勉強って、教科として習う便宜上「国語」とか「算数」とか「音楽」のように分かれていますが、「学び」という観点でいうとそれらは全て結びついていて、特に境界線があるわけではありません。

その線を作ったのは、あくまで人間の側の理屈です。

そもそも、音楽と算数は非常に親和性の高いものですし、最初に音程や音律を定めたのも、数学者のピタゴラスであったと言われていますし、楽譜の読めない私が今もバイオリンを弾けているのは、紛れもなく数学の力を借りているからです。

https://shuchi.php.co.jp/the21/detail/5193

ですから、「ゴキブリの飼育」と「理科の勉強」と「純粋生物学としての昆虫学」にも、神の視点から言えば特に境界線はないのでしょう。
そう思うと、どこかで学びにブレーキやストップをかけてしまっているのは、大人の理屈だったり学問としての線引きだったりするのかもしれません。
ちなみに、私は５人兄弟で下に妹が３人と弟が １ 人いますが、不思議とみんな大きくなってから音楽を始めました。
サックスやらパーカッションやらギターやらみんなそれぞれ違うので、結婚式では兄弟バンドのような形で演奏を互いに贈り合いました。
そう思うと、どこかの何かで蒔かれた種が、思わぬ形によって芽吹くことって少なくないのかもしれませんね。
そもそも「音楽」って嫌いな人は、ほとんどいないんじゃないかと思うんです。
何かしら、好きなジャンルだったり、好みのアーティストがいたりするのが大勢を占めているのではないでしょうか。
そんなことを想いながらこの通信を書き進めていると、以前に６年生に向けて書いた通信とそこに載せていた曲を思い出しました。
この曲をなぜ今思い出したのかは、分かる人からするとたぶんあっという間に分かるはずです。
ちなみに、この通信を渡した子たちは今は高校生になりました。
他の世代でいえば、大学生や成人した子たちもたくさんします。
そして、その中には一緒に私とバンドを組んでライブをした子たちも。
音楽は、いろんな形で人と人を繋いでくれる不思議なツールだなぁと思います。
当時の学級通信から引用して、紹介します。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝引用ココカラ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
音楽は、なぜ生まれたのか。
そんなことをふと考えてみる。
多分、最初の音楽は歌だっただろう。
小鳥のさえずりなどの動物の鳴き声を真似してはじまったのかもしれない。
歩いたりするときや、石器を作ったりするときのリズムからはじまったのかもしれない。
雨乞いなど、願いを強くあらわしたいときに生まれたのかもしれない。
儀式や祭りを通じて広がり、深まっていったと何かの本で読んだことがある。

いずれにしても、音楽は歴史の中に残った。
数千年間人間と共に歩み、今も我々の中にある。
きっと、そこには理屈では語れない何か大切なものがあるのだろう。
先日、男子数人が学校一のギターの名手、教頭先生の演奏を聞きに行ってきたそうだ。

「聞かせて下さい！」とお願いに行った行動力も大したものだが、それに応えてこんな貴重な機会を作って下さり、本当に感謝感謝である。
楽しそうにエレキギターをかき鳴らす写真を見て、思い出した。
この歌詞、一体何の曲なのか、みんなは分かるだろうか。

自分を取り戻すために
俺は少し離れた場所にいる
大変な所から逃げ出したいんだ
君とはしばらく会ってないけど
そっちの生活はどうだい？
でもこれさえ分かっていればいいや
俺はここにいる　今君はそこにいる

これだけは伝えたいな
生きるって気持ちがいい
やりたいようにやるよ
誰も邪魔なんかしないはずさ

でももし俺が道に迷ったら
何処が悪いのか教えてくれるよね？
もし俺が泥にまみれたら
君は手を差し伸べてくれるよね？

空は青く
太陽は眩しい
それは誰にだって同じ事
またいつか会えるんだから
「さようなら」は言わないよ

親愛なる友よ
今でも君は自由なんだろ？
親愛なる友よ
俺の声は届いてる？
親愛なる友よ

「愛」ってなんだろ？
「幸せ」ってなんだろ？
「オレ」ってなんだろ？
過去、現在、そして未来へ
人生は続いてゆく・・・

この曲は、「Dear　my friend」という。
Hl-standard というロックバンドの曲だ。
ここまで聞いてピンと来ていなくても、次のことが分かれば全員理解するはずだ。これは、
「掃除の時に流れている曲」
である。（えー！という子どもたちの声が聞こえてきそうだ。）

歌詞の全ては、英語である。
だから、意味を考えたことはなかっただろう。
日本語に訳すと、先の意味になるのである。
「親愛なる友へ」という曲だ。
実はこの曲、私にとって非常に思い出の一曲である。
２回目に担任した６年生のクラス。
その子たちの中に、ギターを習い始めた子がいた。
お父さんに教えてもらっているのだという。
教室の片隅にいつも置いてあるギターを触りに来ることもしばしばだった。
そんなにおしゃべりな子ではなく、むしろ結構控えめな子だった。
けれど、ギターを弾く姿はとても楽しそうだった。
休み時間、あるいは放課後。
ギターをかき鳴らしながら、色んな歌を一緒に歌った思い出がある。
数年後。
職員室であるうわさを聞いた。
学校の卒業生が組んだバンドが中々の人気で、学祭のステージも大いに盛り上がったらしい。
フーン誰だろう。
と思っていたら、何と先の ６ 年生の男の子が組んだバンドだと聞いて仰天した。
しかも、スリーピースバンド（ギター、ベース、ドラム）の内、ギタードラムの２人が、元渡辺学級の子どもだった。
見に行ったライブで久しぶりの再会を果たし、昔話で大いに盛り上がった。
そして、その子たちは言った。
「先生と一緒にバンドやりたいです！」
そこからはトントン拍子で話が進んだ。
私が、前の学校で企画した「夏フェス」という企画がある。
先生方と一緒に竹を切りに竹林に行く。
竹を切り倒す。
それをチェーンソーで切って、超巨大流しそうめんセットの完成だ。
それ以外にもお父さんやお母さん方に協力してもらって、色んな出店を作ってもらった。
色んなイベントを組んだが、その目玉が先の卒業生バンドのライブだった。
数曲演奏した所で、ベースを担当している子が突如腹痛を訴えて倒れ、タ

ンカで搬送される。
　そしてボーカルの子が言う。
「誰か、会場でベースを弾ける人はいませんか！？」
これは、その子たちが考えた演出である。
「渡辺先生お願いします！」
と呼び出され、ステージに上がった。
　そして、人生で初めて教え子とバンドを組んだ。
　その時に演奏したのが、「Dear my friend」である。
　演奏中は、お互いに話すわけではない。
　が、経験された方は分かると思うが、演奏中の「会話」は確かにある。
「先生、もっとノッてください！」
「分かった分かった(笑)」
「いい音ですね～」
「〇〇もホントに上手くなったな。」
　一曲だけの飛び入りバンド。
　演奏はあっという間に終わった。
　感じたことの無い高揚感があった。
　教え子の成長も、卒業式で別れてから歩んできた互いの歴史も、再会の喜びも、色んなものが詰まった演奏だと感じた。
　だから、この曲を聞くたびにその時のことを思い出す。
　君たちにも、もしかしたら人生でそんな一曲との出会いがあるかもしれない。

　なぜ今も、音楽は我々人間の中に残っているのか。
　きっとそれは、音楽無しでは感じにくい素敵な世界を、共に身近に感じることができるからではないか。
　中世のヨーロッパ。
　人々が教会に集って、神に祈るとき、古い信仰の歌やユダヤ教で歌われていた歌をもとにして、神をほめたたえる歌をうたうようになったという。
　これをグレゴリオ聖歌という。
　その歌の間は、喜びや尊さや神聖な雰囲気や希望や夢や…色んなものが渦巻いていただろう。
　何か偉大なるものを感じながら、自分の思いを捧げていたに違いない。
　筑波大学名誉教授の村上和雄博士は、こうした「何か偉大なるもの」をサ

ムシンググレートと名付けた。
　私も、音楽を通じて何度もそういう世界を感じた。
　初めてカンボジアに行った時。
　片足の路上ミュージシャンに出会った。
　彼は、地雷によって片方の足を失っていた。
　歩くことすら満足にできなくても、その元気な両腕を使って陽気に路上で演奏をしていた。
　同じく音楽を愛するものとして、何かできることはないかと思った。
　お金を缶の中に入れようと思って、足を止める。
　けれど、やっぱりやめた。
　お金を入れるんじゃなくて、もっと別の方法でこの思いを伝えたいと思った。
　私は、バイオリンを取りに戻った。
　そして、再びそのミュージシャンの所へもどった。
　ケースを開け、楽器を構え、その人の奏でる音楽にそっとお邪魔した。
　彼は気づいてこちらを見た。
　目線が合う。
　そして、私を見てニッコリを微笑んでくれた。
　言葉は一切交わしていない。
　そもそも、私はクメール語が話せない。
　けれど、何度も「会話」をした。
　彼は、とてもおしゃべりで陽気だった。
　しばらく ２ 人で演奏していると、日本人とカンボジア人が何かやっていると気づいた沿道の人たちが集まってきた。
そして、大きな拍手を送ってくれた。
　これだから音楽はやめられない。
　同じ事は、中国でもラオスでもベトナムでも起きた。
　中国雲南省、「石林」という世界遺産に行った時。
　民族音楽を奏でている一行に遭遇した。
　手を叩き、相槌を打ちながら聞いていると、不意に一人の男性が私に楽器を渡してくれた。
「弾けるんじゃないか？」という仕草で。
「音楽好きなんだろ？」とも言われた気がした。
弾いたことのことの無い楽器。

けれども、そのあと１０ 分ほど一緒に陽気に演奏した。
最後には肩を組んで踊りながら演奏した。
音楽は、やっぱり偉大である。

みんなにも、そんな出会いがあったらいいなと思う。
そういえば、以前「本当に効果のあるストレス解消法」のことを書いた。
やけ食いも、映画鑑賞も、お酒を飲むことも、ストレス解消の上には何ら効果はない。
しかし、音楽鑑賞はストレスを消すことに効果があるのである。
不思議ではないか。
なぜ、耳から音符や歌詞の集合体を聞くだけで、ストレスが消えていくのか。
そこには、きっと不思議な力があるのだろう。
音楽だけじゃなくて、世の中には不思議なことがいっぱいある。
不思議なことを、こんな風に色々と思い浮かべてみるのは結構面白いことである。
ついでにもう一曲。
曲の歌詞を載せておこう。
君たちは、この曲も毎日聞いている。
英語だから分からないだけで。
さて、どの曲か分かるかな？

My life is a nomal life
俺の人生は平凡そのもの

Working day to day
毎日毎日ただ働くってだけで

No one knows my broken dream
俺にも夢があったなんて、誰も思いもしない

I forgot it long ago
もうずっと前に忘れてしまったけれど

I tried to live a fantasy
ファンタジーの中を生きようとしたことが俺にもあったんだ

I was just too young
若すぎたんだね

In those days you were with me
その頃はいつもお前と一緒だったよなぁ

The memory makes me smile
いま思い出しても笑っちゃうよ

I won't forget
俺は絶対に忘れないから

When you said me "STAY GOLD"
「輝き続けろよ」ってお前が言ってくれたこと

I won't forget
俺は絶対に忘れないから

Always in my heart "STAY GOLD"
その言葉、いまも心の中にしまってあるんだ

It was such a lonely time
寂しかったことも思い出したよ

After you were gone
お前がいなくなってから、寂しい時を過ごしたんだ

You left me so suddenly
お前は突然去ってしまったけれど

That was how you showed your love

それがお前なりの気持ちの伝え方だったんだね

Now I see the real meaning of your words
今なら俺にもお前の言った言葉の意味がわかるよ

They showed me the way to laugh
本当に笑わせてくれるよな

Though your way was awkward
お前はいつも不器用なんだから

I won't forget
絶対に忘れないから

When you said me "STAY GOLD"
「輝き続けろよ」ってお前が言ってくれたこと

I won't forget
俺は絶対に忘れないから

Always in my heart "STAY GOLD"
その言葉、いつも心の中にしまってあるんだ

I won't forget
忘れないから

I won't forget
俺は絶対に忘れないから

Always in my heart "STAY GOLD"
その言葉、いつも心の中にしまってあるんだ
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝引用ココマデ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

１学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ (google.com)